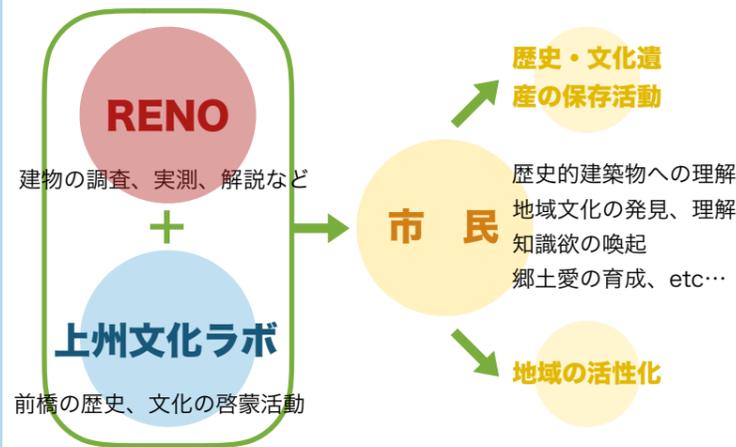


活動の役割と期待する効果



活動履歴

2014年

- 1) 前橋歴史探訪 vol. 1. 「市内に残るレンガ倉庫を巡る」
- 2) 旧安田銀行担保倉庫の模型製作
- 3) 前橋歴史探訪 vol. 2. 「市内に残る歴史的建造物を巡る」
- 4) 前橋歴史探訪 vol. 3. 「市内に残る戦争遺跡を巡る」
- 5) 音楽で振り返る戦時下の様子
- 6) 前橋歴史探訪 vol. 4. 「市内に残る国登録有形文化財を巡る」
- 7) 前橋市 平成26年度市民提案型パートナーシップ事業「前橋歴史遺産双六MAP」の制作
- 8) 地図と双六でたどる前橋
- 9) 映像と音楽で振り返る懐かしの前橋
- 10) 前橋歴史探訪 vol. 5. 「旧安田銀行担保倉庫の煉瓦を探る」
- 11) DVD「繭と倉庫」制作及び上映会・座談会の開催

2015年

- 1) 前橋歴史探訪 vol. 6. 「桜の名所を巡る」
- 2) 前橋歴史探訪 vol. 7. 「敷島公園を歩く」
- 3) 上毛電鉄沿線ハイキング（上州文化ラボと上毛電気鉄道とのコラボ企画）
「前橋歴史遺産と楯取素彦ゆかりの地めぐり8キロコース」
- 4) 前橋地方気象台見学会
- 5) 前橋工科大学 平成27年度地域活性化研究「前橋絹遺産MAP」の制作（現在継続中）
- 6) 前橋市 平成27年度市民提案型パートナーシップ事業（申請）
- 7) 音楽の夕べ ～戦後70年の今日～
- 8) 西埼玉地震（昭和6年）新聞記事の取りまとめ、データ化
- 9) 前橋中央通りアーケード見学会
- 10) 特集・柳座
- 11) 前橋歴史探訪 vol. 8. 「前橋の絹遺産を巡る」

2016年

- 1) 前橋工科大学 平成28年度地域活性化研究（申請予定）
 - 2) 谷川実測調査（進行中）
 - 3) 碓氷製糸場見学会（実施予定）
- その他にも、見学会をはじめとする各種イベントを企画

活動



保存への取り組みと実践（旧安田銀行担保倉庫）
上：前橋歴史探訪 vol. 2. 「歴史的建造物を巡る」
下：前橋歴史探訪 vol. 8. 「前橋の絹遺産を巡る」
（写真右下が旧安田銀行担保倉庫模型、下記、制作物参照）

制作



旧安田銀行担保倉庫の保存・活用を考え制作した模型（RENO制作、倉庫内にて展示）



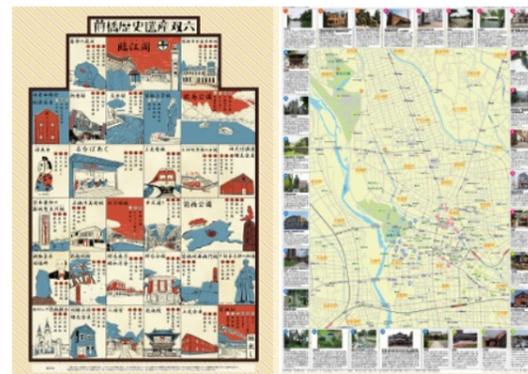
DVD「繭と倉庫」



前橋歴史探訪 vol. 4. 「市内に残る国登録有形文化財を巡る」（前橋聖マッテア教会）



前橋地方気象台見学会（気象台機能の移転のため、現在は見学不可）



前橋歴史遺産双六MAP



絹遺産MAP（作成中）

活動部門

建築物の保存問題全般

群馬県前橋市

前橋工科大学建築保存研究部 **RENO** + 上州文化ラボ

地方都市の記憶の継承 —建築物が紡ぐ歴史と文化—

【団体紹介】

RENOは、前橋工科大学の学生建築サークルであり、歴史的建築・建造物の実地調査及びその活用・保存・改修等に寄与することを目的に設立された。

上州文化ラボは、現在消えつつある絹産業遺産に焦点を当て、郷土の魅力や歴史、文化的文脈から再発見、周知する取り組みを行っている市民団体である。

【問題提起】

地方都市をかたち作ってきた文化、産業などの歴史を今に伝える建築・建造物はその都市の記憶と言えるだろう。しかし、そうした記憶は、都市の衰退や建物の老朽化により年々姿を消している。あるいは、埋もれつつある。それは画一化した経済的価値観によるものであり、歴史の中で培われてきた地方都市のアイデンティティが揺らいでいるからであろう。その意味において、我々は記憶としての建築物を通して、前橋の歴史的、文化的活動を展開し、継承していく必要と価値があると考えている。

【活動】

歴史的建築を理解するためには、その土地の歴史、文化、人々の生業を知る必要がある。一方で、そうした文脈をわかりやすく示す手段として歴史的建築物は恰好の材料である。RENOは建築物に関する知識について、上州文化ラボは地域の歴史・文化的知識とその人的ネットワークを有している。そこで、互いの得意分野を持ち寄り、総合的、発展的な効果をあげられるよう活動している。前橋の旧安田銀行担保倉庫を拠点に、絹遺産関連の見学会、研究など、左記の活動を行っている。



応募代表者： **平澤 宙之**

前橋工科大学 博士後期課程

団体主要メンバー：

村上 雅紀（上州文化ラボ 代表）

森田 達行（上州文化ラボ）

石田 真弥（前橋工科大学 博士後期課程）

大学での学習・研究のみならず、建築の今を知り、問題意識を持つことが学生の時期から大切である。一方で、地域の歴史や文化、あるいは歴史的役割を終えた建物を後世に残そうにも、専門知識を持たない市民だけでは困難である。そこで両者が協働し、社会の中にある実際の歴史的建築物を軸に、その歴史的、文化的価値を後世に伝える活動に取り組んでいる。建築という形ある記憶は、地方都市のそれまでの歩みを現在に伝える重要な資産であり、目には見えないその都市固有のアイデンティティを我々に教えてくれるツールでもある。建築物によって都市の歴史や文化は紡がれていくのである。